

2024年(令和6年)
2月29日(木曜日)

2面

リバー産業施工「盛り上げる」

韓国パビリオン起工式



韓国パビリオンの起工式でくわ入れする関係者ら。28日午前、大阪市此花区(柿平博文撮影)

大阪・関西
万博
2025

2025年大阪・関西万博に出展する韓国のパビリオンの起工式が28日、会場予定地の人工島・夢洲(大阪市此花区)で行われ、韓国と日本の関係者約50人が出席した。施工は地元の不動産開発会社、リバー産業(大阪府岸和田市)が手掛ける。展示を含め来年3月末に完成する予定。パビリオンは出展国が独自に建てる「タイプA」

で、テーマは「ウィズハーツ 心を合わせて」。外壁に超大型LEDディスプレイで映像作品を映し出す。館内展示では人工知能(AI)などの先端技術を活用し、「いのちの循環」や「未来社会」を演出する。

万博会場の建設工事では大手ゼネコンの受注が目立つ中、リバー産業の河啓一社長は「大阪は官主導でなく民主導でない」と動かない。アイデアを出すのは中小企業の役割。中小企業ががんばって万博を盛り上げ、日本を元気にしたい」と意気込みを語った。

海外パビリオンは資材費や人件費などのコスト高騰で工事が遅れており、大阪府などは地元建設会社にも協力を呼びかけてきた。同社は「協力会社と一体となって前向きに進めていく体制を構築した」としている。

万博を運営する日本国際博覧会協会によると、26日までに着工した海外パビリオンはシンガポール、中国、アイルランドなどの5カ国。